

刊夕 日七廿月十



定価 一冊五錢 一月五拾五錢 郵費五錢
 廣告料 五字一十二字一十一行五拾五錢
 日曜祭日の翌日休刊
 本紙の発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日新聞社
 電話 常磐毎日新聞社

市制實施の概要

先づ第一に産業道路を改修し、交通運輸の便を圖り、會ては三日費したる努力を半日又は一日を以て果し、勢少なく効多く其生したる餘剩努力を工場地帯あらは其従業員に、家庭工業に、手藝品製作等に凡ゆる仕事に勞力を仕向け、生産力を増進するにあらざれば、國民生活に行詰る場合あるを想像せざるを得ざるものあり、産業國策を非常時日本の一に數ふる所以も此主旨に外ならず、都市に特種の待遇恩典ある所以は都市は工業を勃興する條件備ふるを以てなり。兎に角輸入貿易を輸出貿易に轉換するにあらざれば我が國家國民は生活に行詰るものと見なばならぬ。幸ひに我が國民性は簡易生活に耐へ得る素質を有し、西洋に比較し勞銀廉價なる所所を利用し、工業國策を高潮し生産品を海外に輸出せざる可らず、中央政策は地方民即ち自治體の國民自らは是を知り國運の進展を期することを要す。此意味に於て平を一日も早く大都市建設の急に迫りたるも地域狭少の欠陥あるを以て賢明なる平窪村民の理解を求め市制を促進せんとするものである。是か實現は即ち兩町村民の一大幸福であるといふるのであります。

四、現任平町の財政と資源とには絶体に不安はありませんが、故に何れの市町村に比較するも敢て遜色なきのみならず、却て基礎の鞏固なるを誇り得ると信じます。假令は別表

① 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 〇 明日の献立 〇
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

【朝】味噌汁・豆腐 小井
 金山寺味噌
 【晝】煮浸し・白菜 小皿
 やきのり
 【晚】蒲焼・うなぎ 粉山椒
 清汁・松茸 半べん

の如く昭和十一年度の起債を見込公會堂新築、第四小学校建設、商業學校移轉敷地等を合算し元利金償却は昭和十一年同十二年兩年度は七二、五八九余つ、三十三四の兩年度は五八、三〇〇、十五年度は四四、六三四餘、十六年度以降二十年度にては二九、六六一餘、更に以下は貳萬圓又は壹萬圓

文藝募集

積るも尙は餘裕生ず、況んや三ヶ年後は四萬圓内外の剩餘金を見るに至る洵に基礎堅實なりと謂ふも決して過言にあらざるを信す。安心して可なり五、特別戸數削減せらるれば市町村税負擔は自ら解消し、財産税所得税資本利子税營業收益税等に重課し、農村の如きは非常に恵まれ市民たると農

吉田眼科醫院

平町紺屋町

村たるを問はず平等の地位なり。併し従水の如き特別戸數削減の存置すると假定しても別表の如く五割乃至三割以上は平町より平窪村の方が課税率高き割合なり、之を以て見るも斷じて課税加重せることを立證し得るものと信じます。

銘仙の宣傳

景品付大賣出し

●十月廿九日より十一月四日迄●
 足利 八王寺 一反毎に
 伊勢崎 秩父 新製風呂敷一枚
 今秋の新製品珍柄大量に取揃へました
 御名物は銘仙がお徳用日常の花形
 夜具地と丹前は殊に高尚な新製品各種
 原料は日々昇騰して参りました幸に格安値品豊富に仕入致しました
 是非御来店上の御批評御買上の程願申上

平三丁目
三井呉服店
 電話三八二八四番

和洋家具

其他裝飾品一般……
 御用命は迅速に御努め致します
製作販賣 諸官衙 御用達 各學校

片寄製作店

平町五丁目四
 電話四八四番

秋……味覺の秋！

秋……味覺の秋！
 杵すし自慢の……
 おでんとなべ
 ……味は江戸前。種は江戸から本場からはまなべ。ねぎまなべ。二十五錢均一よせなべ。しやこなべ。
 御用命は電話六七九番へ
 遠近に不拘御届け致します。
 何卒御試食の程を……
 江戸前 杵壽司
 出前迅速

メリヤスは

専門店 ザッパカ

毛メリヤス、綿メリヤス 豊富に取揃へてございます。
 毛物は今冬に至り一躍急騰致して居りますが毛製品は全部安い時季の契約品であり製造家直接の大量仕入に付綿メリヤス同様、品も値も御満足を得る品でございます。
 冬のお仕度は是非!!!
 山家メリヤス店
 平町貳 電話六〇五番

北川外科

外科一般 レントゲン科
 内臓外科
 平町新川町二七（諸橋醫院跡）
 醫學博士 北川芳夫
 小林良次
 電話四六四番
 （血液検査毎日）
 イツデモ入院出来マス

コロンビアレコード

十一月新譜發賣
幻想交響曲
滿洲吹雪 等其他
 會田時計店
 四丁目 電話三六三番
 金光堂時計店
 五丁目 電話一九五番

三井タクシー

平二 電六八五番

實りの秋の 大繁忙 人夫ヤーイ

鐘や太鼓で探しても 救済工事へ寄付かぬ 土木事業停頓

萬物みな豊かな實りの秋に入り農家が永い一年間の血と汗の結實した稲の收穫に夜も晝もなく一家總出で働らく一方漁濱方面も去月十五日底曳船開禁と前後して秋職の王秋刀魚漁、鰯漁が幾千、幾萬の漁民待望の裡にその生活線上に開始されて昂奮と刺激を捲き起して居る結果これら農漁村を潤し來つた各種の土木關係事業は全くの人夫沸底で事業進捗に大きな支障を來たし關係者は狼狽一方ならざるものがある

平土木監督所では目下勿來町地内野田川改修工事並に上遠野村深山田地内縣道改修工事等々各種工事を施行中であるが最近農家は實りの秋で收穫に急がしく猫の手も借りた繁忙季に入つたので常ならば農に従事するよりは割がよいと工事關係に使役されてゐたものが現在ではさつぱり希望者無く從事してゐた者さへ辭めて寄り付かぬ始末に同所では各方面に手を伸ばして人夫募集に大苦戦となつてゐる

これも人不足の例——石城海岸地方は繁忙の秋職が愈々最盛に入つて秋刀魚漁並に底曳船の乗組員が不足を告げ八方募集、遠く縣外にまづ手を擴げて現在では漸く兩漁業乗組員はなんとか間に合つてゐる●慮で

出稼保護 縣へ報告済

平職業紹介所では既報の如く出稼人保護組合設立の參考資料として管内の出稼人を調査中であつたがこの程終了縣に報告した、右に依れば管内各町村の出稼人は四倉町の七百二十名を最高に左記の如くである

- 内郷村四九四 三阪澤
- 渡組合村二二一 赤井二
- 二一 草野二四六 永戸
- 三〇四 小名濱三八四
- 平窪二一〇 平四五〇

平窪側の合併委員 昨日の村會に決定しない

昨二十六日午後一時から平窪村では村會を開き平窪町に對する合併交渉委員を推薦する筈であつたが決定するに至らなかつた

四倉水道 愈よ起工

既報總工費十四萬三千五百圓を投じて上水道を起工することになつた四倉町では久之濱町側との敷地問題に關する紛糾も解決したので來る十一月四日地方有志を招き同字栗木作地内に於て歛入式を行ひ愈々着工することになつた

小名農産品評 濱町農會では來月十一日か

日々に捧げる教師の聖なる魂こそ眞に児童を生かす發展させるものである。教育は直實に魂と魂の融合である。児童が教師の頭から足の先まで信頼し、教師は児童の全生命を抱き締めてこそ、尊い教育の行脚が出来るのである。而も児童の現實に即した個々の具体的な發展を希ひつゝ、あらゆる度から指導發展

公有造林功勞者を 永く記念碑に録す

四倉町山野整理の記念碑除幕式は來月中旬に舉行の豫定で目下同町日の出岡忠魂碑附近に基礎工事中であるが同工事は總工費三千圓で建立されるもので

平第二の 体育週間

平第二校の體育週間の行事

二三會展を見る [上]

せしめることが最も尊い姿であることを深く考へさせられる。

讀方研究教授 平第二校佐藤訓導は今二十七日

午前十時から三年の三組の讀方研究教授を行ひ職員の評議會を開いた

小川江臨時會 小川江筋組合は來月一日午前十時から平團體事務所を開き追加更生豫算、工事施工法常任委員白土平次氏辭任に依る後任者選舉の件を附議する

入營兵の 附添を決定

町村長石城支會は三十日午前十時から平町會議室に開き本年度入營兵附添者決定並に數件を附議する

弓道豫選 平署道場で

武徳會福島支部主催弓道大會は來月廿三日福島武徳殿で舉行されるがこれに先立ち平地方豫選は來月三日午後一時から平署弓道場で行ひ正選手二名、補欠一名を決定する

磐女の庭排球 磐女は明二十八日午後一時から一年の庭球、二年の排球小會を催すと

産馬更生豫算 石城産馬畜産組合臨時會は二十九日平町團體事務所を開き追加更生豫算等を附議する

平職業紹介所報告

- 人々を求めの方
- 日本食糧従業員 二十才前後 日給食付五十錢位
- 見習職工 十六才位 高卒程度 小遣仕着
- 番頭 五十才迄 給五圓外チップ
- 帳場 二十才前後 給十圓
- 農夫 五十才迄 給十五圓 外に四名程
- 箱人夫 三十才迄 給十圓以上
- トラク助手 二十才前後 日給六、七十錢
- 停車場庫方 四十才迄 日給八十錢
- 女中 二十才前後 給五圓
- 職を求めの方
- 風呂番 三十五才 高卒 一修
- 給仕 十六才 高卒
- 炊事婦 五十五才 尋二修
- トラク助手 十八才 尋二修
- 自動車助手 十五才 高卒
- 農夫 六十二才 尋一修
- 土工夫 二十一才 尋卒

時價六十萬圓の 公有造林功勞者を

四倉町山野整理の記念碑除幕式は來月中旬に舉行の豫定で目下同町日の出岡忠魂碑附近に基礎工事中であるが同工事は總工費三千圓で建立されるもので

二三會展を見る [上]

日々に捧げる教師の聖なる魂こそ眞に児童を生かす發展させるものである。教育は直實に魂と魂の融合である。児童が教師の頭から足の先まで信頼し、教師は児童の全生命を抱き締めてこそ、尊い教育の行脚が出来るのである。而も児童の現實に即した個々の具体的な發展を希ひつゝ、あらゆる度から指導發展

讀方研究教授 平第二校佐藤訓導は今二十七日

午前十時から三年の三組の讀方研究教授を行ひ職員の評議會を開いた

路線決定を控え

片濱廻りを強調

關係町村が要路に向つて

猛然陳情攻め

平小鐵道路線は過般鐵道本省の測量も終了、愈々片濱廻り？湯本廻り？何れかに決定することになつた片濱通りを支持する關係各町村では

近く要路に向つて最後の陳情を行ふことになつた

青年學校

聯合演習

役員打合せ

去る昭和三年の縣會で片濱廻り路線が採擇されて居る事實と當地産業開發百年の大計樹立のためこれが片濱廻りは縣民の總意であることを強調し

既報近く郡下青年學校の生徒を動員聯合演習を行ふ筈の本郡青年學校聯合會は来る三十日午前九時から平青年學校に役員會を開き日取場所其他種々協議する由

磐越線慘事の

けふ一週年

黙禱を獻げて

魔の附近は嚴丈な備へ

昨年の今日今日十二名の生靈をのみ五十餘名の重傷傷者を出した磐越東線川前、小川郷間の列車脱線慘事は本廿七日早くも一年忌を迎へて慘憺たる當時の記憶を新たに記してゐるが川前、小川兩驛では夫々ささやかな追悼式を行ひ惨死者の靈に對し黙禱した、尙仙鐵局ではこれよりさき線路の補強工事はもとより豪雨や崖崩に備へてコンクリート擁

壁やダムを築き更に線路と縣道間の石堤工事も完成した

風呂敷包から

錦紗採取

磐崎村下湯長谷農正雄妻大平タケ(五)は去る六月中染物外交に來た平町南町鈴木染物店方員村上留五郎(三)の風呂敷包から錦紗衣

賣上千圓増

バザー大成績

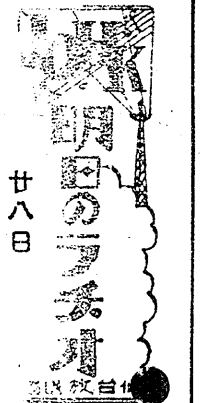
毛糸編物が一番の賣行

既報二十五、六兩日の磐女バザー總賣高は四千四百九圓九十錢と云ふ大した勘定、昨年の三千七百五圓五十九錢に比し約千圓増加の大成績で各部の内譯は裁縫手藝品部二千八百一圓六十八錢、食品部九百七十六圓七十四錢、化粧品部二百七十一圓四十八錢で一番賣れたのは毛糸編物品であると

遺言の校旗

母校へ寄附

赤井第一小學校は此程校旗を新調來月三日の明治節佳辰を卜し午前十時から校庭で樹立式を舉行するが同校旗は同校出身神戸神港商業學校長の故芳賀鶴松氏の遺言に依り遺族から寄贈され



明日の予報

今晚も明日も北西の風晴

今晚の部

後六、〇〇 少年音樂講座
「ハ・モ・ニガ」川口章吾
後六、二五 青年の時間
中等學校雄辯會合格者須賀井清介、高橋清、鈴木貞衛
後七、三〇 講演「世界を支配する大資本の系統」向井鹿松
後八、〇〇 歌謡曲と女聲

明日の部

前六、三〇 基礎英語講座
格四十八圓を片賦の約束で買つたき、支拂はず同町田町藝妓の歡心をかう爲め呉れて終つたこと判明二十六日平署に檢舉された

月賦を拂す

藝妓に呉れた

元内郷村綴驛手大阪生れ當時住所不定大西清恒(三)は去る二月中平町五丁目金光堂時計店から金側懐中時計一個クローム腕時計一個價

第三校の寫生展

中西磐女教諭が審査

平第三小學校は目下全校兒童の郊外寫生展覽會を開催してゐるが中西磐女教諭審査の上優秀者には賞状を授與する由

湯本女青獻金

湯本町女子青年團ではこの程催した音樂會の純益金中から

鹽谷榮
前七、〇〇 朝の修養「山の垂訓」村田四郎
前一〇、三〇 家庭講座「季節の漬物」後藤信哉
後〇、〇五 芝居囃子「世話狂言七景」福原百之助
社中
後〇、三〇 國民歌謡 瀧田菊江
後二、〇〇 母の時間「子供の勉強を見る親の心構へ」岡部彌太郎
後二、四〇 小學生尋五高の時間 時事解説「十月月の出来事」東京學校劇グループ
後三、一〇 教師の時間 現代國語教育講座「我が

裁判一束

△内郷村大字級字一之坪六〇電工鈴木章(三)は去月一日午後十時頃酔同僚齋藤辰正を毆打全治二週間の重傷を負せ今二十七日平區野木判事から傷害罪として略式罰金二十圓に處された
△燈火管制の暗を利用して飲み逃げしたといふ平町四軒町佐藤致中(三)同正月町神村末治(三)の兩名は其後平檢事局に送検され櫻井檢事の取調べを受けたが佐藤は遊興費を支拂ふ事を契つて居り神村は佐藤の御馳走で遊興した事判明今二十七日共に不起訴處分になつた

安齊科醫院

平町・田町 電話四七五番



國旗と提灯の祭り

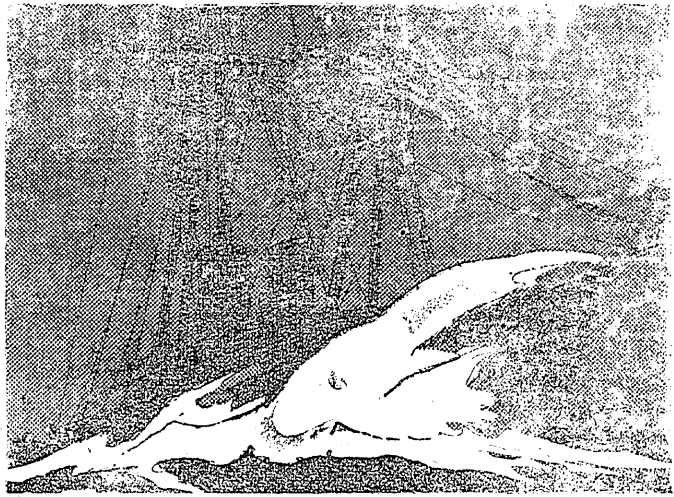


悟道軒圓玉(作) 丸尾至陽(書)

二五五 幕軍敗走す

幕軍は二股口と失不來の二ヶ所の戦ひで大分損害をうけたが、しかし敵にも多大の損害をあたへた。すると矢不來から使が参つて刻々に危険がせまる、援兵を乞ふとの口上、そこで大鳥圭介君が兵五百を引いて矢不來へ進み、敵の押し寄せを引受けてこゝで戦つた

とこゝで地雷火をふせ又うしろの山には新に胸壁を築いてこゝに守備兵をおいた。果して官軍は四月の二十九日の午前海陸より進みよ



大「これはまた押して来るな、今引き上げたは新手を入れかへる爲めだ、何しろ敵には兵が多いからな、こゝちは戦ふたひに兵を損じそれを埋め合せることが出来ぬよ、吾々は着たり雀でお宿とするは五稜廓、敵は二枚も三枚も着てゐる、悪くなれば脱ぎすて、あたらしいものを着る、かうなると貧乏人は困るな」といつてアハハと笑つた

幕軍は拳さかりに射ち出した、ひくいところにある官軍の兵は見る／＼うちに二三十人射ち倒された、これがために氣勢をそがれてドツと退却する、一方は正面より兵を進めた官軍、幕軍の胸壁近く来たときに地雷火が爆発した、官軍はこれがために多大の死傷者を出した、これを見て幕軍は戦は勝たぬと胸壁をこえておどり出で追撃する、この矢不來は廣々たる原です、たゞうしろには山があるばかり、それ故嚴重に胸壁をき

行つて止めてくる。大「まだ戦は勝たぬぞ、追ふな、追ふな、引きあげろ、引きあげろ」といつた、果して大鳥君の察したごとく官軍の軍艦より幕軍をのぞんで射ち出した、胸壁をはなれて出た兵とてこれをさげることが出來ない、バタ／＼射ち倒された、そのうちに一旦引きあげた官軍がどつと盛り返して弾丸をあびせる、軍艦から射ち出した砲弾のために胸壁はうちぬかれ、その上大砲に命中して幕軍ではモウ砲を用ゆることが出來なくなつた、勝ちほこつた幕軍も今はドツと崩れる、そこで大鳥君が兵をまとめてこの矢不來をすて、富川から有川といふところまで引きあげた、これは函館にちかひところ、まづこゝで一時期休息したが大「それだから俺がいつたではないか、まだ戦は勝たぬと云つたが判らなんだか残念だな、敵に矢不來をわたしたはあれを敵に占められると多分に不利益だ、それ一息ついたら引返せ」と申ししたがそのうちに官軍の軍艦春日はこの有川の海に乗り入れ端艇に兵を乗せてドンドン上陸させる、これを見て幕軍は兵を配置して防戦なさむとしたが敵はすこぶる優勢、軍艦の援護のもとに攻めよせる、これがために幕軍は散々にうちなされて函館をさして敗走する。

幕軍は拳さかりに射ち出した、ひくいところにある官軍の兵は見る／＼うちに二三十人射ち倒された、これがために氣勢をそがれてドツと退却する、一方は正面より兵を進めた官軍、幕軍の胸壁近く来たときに地雷火が爆発した、官軍はこれがために多大の死傷者を出した、これを見て幕軍は戦は勝たぬと胸壁をこえておどり出で追撃する、この矢不來は廣々たる原です、たゞうしろには山があるばかり、それ故嚴重に胸壁をき

必備薬庭家の本日
ルメフ
皮膚に傷外に化粧に
町田町平
補薬部阿

當擔醫門專科各
院病濟共磐城
久喜部谷長 士博學醫 長院
番一四六話電・平

諸機械製作販賣
合名 **田邊製作所**
平白銀町(驛前通)
電話二九四番

機械切各種齒車製作

- 一 齒科一般 保存科補綴科 繼續架
- 一 工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
- 一 口腔外科 一 レントゲン科

中野齒科醫院
院長 日本齒科中野惠次
醫學士 西川誠
平町田町(松月堂向と)
電話五〇九番

干やなぎの御注文は
いか切込
是非 仙魚店
美添……体裁優美は
當店のモットーです
鯉節・鹽辛
鮮魚仕出し
丸仙
電六六二番

第四回
郡下模型飛行機競技大會開催
期日 來る十一月三日午前八時(雨天・強風中止)
場所 平第三小學校々庭

機體 A組 ライトプレーン式(丸・四角・三角胴)
B組 ライトプレーン式(一) 本 胴
賞品 一等大銀カフ外七等迄
参加資格 誰にても可多數御参加を願ま

主催 平警署
後援 平毎日新聞
店具玩やみづい
社開新日每警常